

峰ヶ丘会報

題字 松澤 康男 会長

第158号 2020 (令和2). 10. 10



船生演習林での森林保護学実習の対面授業 森林科学科 2020. 9.14

CONTENTS

第5回ホームカミングデーナップ写真	2
会長挨拶・理事長就任挨拶	3
特集 宇都宮大学における 新型コロナウイルス感染症拡大の影響	4
退職のご挨拶	6
追悼	7
支部総会	10
クラス会	11
特別寄稿	15
令和2年度理事会報告	16
支部長一覧	17
お悔やみ	17
決算書・予算書	18
お祝い・寄贈図書	19
編集後記	19
こんなことやってます	20



MINEGAOKA NEWSLETTER No.158
The Alumni Association
 Faculty of Agriculture
 Utsunomiya University
 Utsunomiya 321-8505 Japan
 E-mail:minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp

第5回ホームカミングデー スナッフ写真



集合写真



もちつき!



みんなで!



乾杯



会長挨拶



学長挨拶



学部長挨拶



懇親会の様子



会長挨拶

峰ヶ丘同窓会会長

松澤 康男 (農昭41卒)

峰ヶ丘同窓会の皆様方におかれましては如何お過ごしでしょうか。2020年は、早々に新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延して、これまで経験したことのないパンデミック状態になってしまいました。このウイルス感染症を克服するために「うがいー手洗いーマスク使用」の伝統的な対策に加えて、「密閉・密集・密接」の三蜜を避けるなどの感染症防止策を徹底することになりました。その昔、弘法大師が伝えた真言宗の三蜜は、「身密(しんみつ)・口密(くみつ)・意密(いみつ)」を指し、体や行動を整え、言葉や発言を正しいものとするれば、おのずと心や考えも整うという教えだと言われています。これまでの約半年間の引籠り生活の中で、私はふと考えました。自分にとって、生物・医

学的な対応策と心情・精神的な三蜜対応策とのどちらが合っているだろうか。先が見えないコロナ禍のなか、8月の朝日新聞花壇に「いくつもの 行事消されしカレンダー 無機質な日を 刻むのみなり(栃木)大出 幹治」の歌が目にとまりました。そして、識者がよく唱える「一律に求められるものではない自粛」、「with コロナ」、「pinchを chance に」などの言葉に段々と合点がいくようになってしまいました。

峰ヶ丘同窓会の行事が悉く中止になる中、常任理事会はコロナ禍の学生支援の方途について検討しました。この間、常任理事の先生方には、教育、研究、社会貢献など極めて多忙な本務の中で、峰ヶ丘同窓会の活動に熱心に取り組んでいただいております。ここに感謝し、引続きご尽力していただきますようお願いします。

同窓会の皆様方におかれましては、上に記した三蜜の教えに心を留められ、この難局を乗り切ることが出来ますように、また新しい近未来が訪れますように祈念いたしております。



理事長就任挨拶

峰ヶ丘同窓会理事長

安藤 益夫 (経昭54卒)

本年6月より、常任理事会理事長を拝命した安藤益夫と申します。2015年4月に35年ぶりに母校に戻り、早や5年余りの歳月が経ちました。赴任当初は、キャンパスはもとより学生気質の変貌ぶりに戸惑うばかりでしたが、実学重視の伝統がしっかり継承されていることを実感し、心強く思う今日この頃です。理事長という大役を恙なくこなせるかどうか、甚だ心許無い限りですが、松澤会長・大塚副会長をはじめ常任理事の皆様御支援を賜りながら同窓会運営に努めていく所存です。また、会員各位に対しましても、この場をお借りして御指導・御鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

さて、本年度は新型コロナウィルス禍のために、異例の船出となりました。例年、4月には期待と不安を胸に入学した新入生のために、激励を込めて開催してきた歓迎会を、3密回避のために諦め、さらに6月恒例の総会と懇親会の開催も断念し、郵送による承認手続きを採らざるを得ませんでした。また、コロナ禍は大学運営そのものにも大きな影を落としています。例えば、教室での対面式講義に代わって、パソコンによるメディア授業が主流となり、キャンパスには学生の姿はなく、ひっそりとしています。人間形成の場でもある大学にとって、学生同士あるいは学生と

教員とのFace to Faceな関係での人格的交流機会が激減し、学生の大学に対する愛着が希薄になることが大いに懸念されます。

近年、大学及び農学部を取り巻く情勢は、目まぐるしく変化しております。特に、「地域に貢献し、地域に信頼される大学」を標榜する宇都宮大学では、2016年4月に地域デザイン科学部、2019年4月には地域創生科学研究科が新設されました。そのため農学部定員の削減や農学研究科の発展的解消という代償が払われました。元来、農学部は大正11年(1922年)の宇都宮高等農林学校開学以来、実学重視の学風の下で育った峰ヶ丘同窓会々員諸氏が、自治体を始め農業関連産業の各方面で御活躍され、多大の地域貢献をしてきました。この点では農学部は1世紀前から先取的に今日的要請に答えてきた、と言っても過言ではありません。したがって、昨今の目まぐるしい情勢変化に晒されようとも、これまで通りに開学の精神と理念を堅持し、伝統のある農学部を継承していくことが重要と考えております。

最後になりますが、再来年(2022年)は農学部創立100年の記念すべき年であり、現在、各種事業やイベントが計画されております。その一環として、本学の象徴とも言える峰ヶ丘講堂、大谷石製の石蔵(旧図書館倉庫)、フランス式庭園を含むエリア(通称「ヒストリカル・ゾーン」)の整備のために、同窓会として多大の資金援助を行うことを昨年度総会にて同意を頂きました。同窓会々員の皆様におかれましては、是非、整備されたキャンパスを訪問され、歴史と伝統とともに進化する農学部を肌で感じて頂ければ幸いです。



宇都宮大学における 新型コロナウイルス感染症拡大の影響

はじめにー 3月の卒業式にてー

2020年3月、新型コロナウイルスの全国的な拡大を受け、3月24日に宇都宮市文化会館で開催予定であった学位授与式（卒業式）の中止が決まりました。また、多くの学科が例年開催している、謝恩会や卒業祝い会等のパーティーの中止も余儀なくされ、昨年度の卒業生は、同級生、先輩や後輩と思い出を語る貴重な機会がなくなってしまいました。学生・教員は勿論、この日を心待ちにしていたご家族にとっても、大変残念な日だったと思います。

大学全体での式典は中止となりましたが、学位記の授与は、3密を避ける等の適切な対応を設けながら、学科の単位で実施することとなりました。この時期の栃木県での感染者は数名だったこともあり、ほとんどの卒業生・修了生が大学に集まることができました。3月中の行動は自粛していた学生が多く、友人と会う機会も限られていた学生たちに、最後の登校日を設けられたこと、マスク姿ではありませんが喜びと寂しさを例年のように感じることはできたことは、今となっては幸いだったと感じています。

式典の代わりに、学長式辞、および卒業生・修了生代表謝辞（峰ヶ丘講堂にて代表者のみで実施した卒業式）のビデオ動画が配信され、学科での授与式会場でも再生されました。卒業生代表として謝辞を述べた地域デザイン科学部の平野さんの、「宇都宮大学での学びや、育ててきた友情は消えません。寧ろこのような経験が私たちの絆を深め、大きな思い出として心に残り、いつか笑顔で語り合える日が来ると信じています。」という言葉が大変印象に残っています。不測の事態の中でも現状を受け入れ、未来にむけて泰然と巣立っていく学生たちを大変心強く思いました。同時に、我々教職員もこの変わっていく社会状況にしっかりと対応していかなければならないと決意を新たにしたりもしていました。

メディア講義

4月、卒業式と同様に入学式の中止が決まり、課外活動や海外渡航、一般の方の入構が禁止になりました。特に4



学内の静けさ

月20日から5月24日は職員の入構も制限され、研究室で活動も原則禁止となり、在宅勤務も開始されました（本学対応方針の中のステージ3）。

学生も入構が制限され、例年通りに学生を大学に集めての講義（対面講義）は難しい状況となりました。当初は4月9日から開始予定だった前期講義

も4月20日開始に延期となり、学生が自宅受講できる「メディア講義」が実施されました。当初、各教員は、Zoom等のウェブ会議サービスを利用した（リアルタイムの）オンラインでのビデオ講義や、講義の動画を撮影して（You Tubeなどで）配信するなど、これまでの講義スタイルを前提とした方法を想定していたと思います。しかしながら実際は、学生へのインターネット環境の調査結果から、1割以上の学生がデータ通信制限、またはパソコンを持っていないなど、上記のような形式の講義では参加できないことが判明しました。そこで、①講義内容のスライド（PDFファイル）と、②音声ファイル（mp3形式の圧縮音声ファイル）の2種類のファイルをそれぞれ準備し、一回の講義で20MBの容量を超えないように資料を作成して実施することとしました。4月当初の時点では、最初の3回分はこのような形式で行うという予定でしたが、全15回をこのような形式で行った講義が多かったように思います。

実際に資料を作成してみると、まず板書で説明予定だった部分をパワーポイント等に打ち直す、スマートフォンでも見えるようにフォントや色を工夫するといった作業が必要でした。また、容量が大きくならないように様々なソフトウェアを使いながらPDFファイルを作成しなければなりません。また、音声ファイルも実際に録音してみると意外と難しく、レーザーポインターや指し棒が使えないため説明し難い、言い回しがくどくなる、「えー」や「あー」が多いなど、録音した自分の声との格闘が続き、一つの講義資料の作成に10時間以上かかることもありました。一方で、自分の講義の質を見直す良い機会にはなったように思います。

このように用意した講義資料を、各講義時間までに「C-learning (<https://www.c-learning.jp>)」という学習支援システムに掲載します。C-learningは学生と教員がインターネットを通じて教材や情報を共有できるソフト（アプリケーション）で、宇都宮大学では昨年度から大学院向けに契約していましたが、今年度からは学部生用の講義にも採用しました。学生は、講義を履修登録すると、C-learning上で受講する講義のページにアクセスできます。そして、各自のパソコンやスマートフォンから、そのC-learningページに掲載中のスライドや音声資料を閲覧、またはダウンロードして講義を受講します。実際は、資料の掲載期間内であればいつでも（何度でも）受講できる形式です（我々はこの形式を「オンデマンド型」と呼んでいます）。講義開始日の4月20日にC-learningへアクセスできないなど、学生への負担となるトラブルはいくつかあったかと思えますが、システムとして大変使用し易いと感じています。また、5月に教員向けにメディア講義に関するアンケートがあり、急遽ゼロからこのようなシステムを構築した学内のメディア講義検討チームに対し、学内から感謝の言葉が多数出ているのが印象的でした。

このようなオンデマンド型の講義では、学生は、理解しにくい、または興味のある講義資料を、何度も見直すことができます。ある学生が50回以上も閲覧した講義資料があり、作った甲斐があったなと思った回もありました（C-learning上で閲覧回数も確認することができます）。一方で、資料を掲載（提供）しただけでは講義は成立しない、という規定があるため、講義ごとに内容に関するレポートや小テストを学生に課さなければなりません。これら課題の提出もC-learning上でスムーズに行うことができますが、学生さんたちはレポートや課題に追われる日々が続き、とても大変だったと思います。ただ、上記のように何度も講義を受講でき、そして自分でも調べる習慣がついたからなのか、レポート内容の質は例年よりも高いように感じました。また、オンラインの方が教員にコンタクトしやすいのか、自主的な質問、意見、アイデアが多いように感じています。期末テストもメディアを利用しての実施でしたが、課題提出などでアウトプットする機会が多かったためか良くできており、学習の効果も感じています。

実験・実習、研究活動

4月20日から5月24日のステージ3の期間中は、研究室での活動が制限されていましたが、5月25日から現在までは、比較的制限の少ないステージ2とし、換気、マスク（フェイスガード）、手洗い等を励行しながら、最大限の配慮のもと4年生や大学院生は研究室での活動が許可されています。ゼミや研究打ち合わせのほとんどはウェブ会議サービスを活用したオンラインでの実施ですが、限られた時間の中でも研究成果を残そうと、学生たちは意欲的に実験しています。



バス移動時の検温



船生演習林での下刈実習



応用生命化学科実習

一方で、ステージ2期間でも研究室に所属していない1～3年生は、特段の理由がない限り大学に入構できない状況です。よって、メディア講義が困難な実験・実習は、通常の前期講義期間に実施することができず、9月に集中的に実施することとなりました。3密を避けながら、どうすれば質の高い実習をすることができるのか、担当教職員が知恵を出し合いながら行っています。可能な場合には、予め実験や実習を収めたオリジナルのビデオ動画を大学院生の協力を得ながら作成し、C-learning上で配信するなどの工夫も行っています。

学生支援

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、学費支弁者の収入減、本人のアルバイト収入の激減・途絶、さらにはメディア講義への対応など、学生生活に対する経済的打撃が深刻化しつつあります。こうした事態に対して宇都宮大学では、5月より「緊急学生支援」として、支援金支給、授業料納付の延期、ノートパソコンの貸与等の措置をとりました。この際、光陽エンジニアリング株式会社の飯村様、株式会社TKCの飯塚様、ランスタッド株式会社の増山様はじめ、多くの皆様に多大なるご支援をいただきました。また、新型コロナウイルス感染症の影響は長期化しており、今後さらに経済的に困窮する学生が増えることが予想され、現在でも宇都宮大学3C基金「緊急学生支援基金」としての大学内外で寄付金を募り、さらなる学生支援に使用しています。峰ヶ丘同窓会常任理事会でも学生の経済状況について調査を進めながら、長期化する事態も考慮し、9月から「学生支援制度（2003年6月28日制定）」を活用し、本学での修学継続が困難になっている学生会員に対して、経済的支援を実施することを予定しています。

おわりに

8月、メディア講義による前期授業が終了しました。9月には一部の実習等の講義が対面式で実施することが予定されており、久しぶりに学生の顔がキャンパス内で見ることができそうです。しかしながら、10月からの後期授業も原則メディア講義とすることが決定しております。学生の経済面のみならず、メンタル面へのケアも必要だと感じています。特に1年生が心配です。最近、日本テレビで「親バカ青春白書」というドラマが放送されており、昨年度までの学生が溢れるキャンパス生活が描かれています。このような大学生活をイメージしていた学生は落胆しているのではないかと危惧しています。現場の人間として、講義の質のみならず、学生の気持ちにも寄り添った教育ができるよう心がけていきたいと思えます。

今年度の「対応」をもとに、皆でアイデアを出し合いながら、次のステップへの「進化」に繋げ、近い将来「成果」として語ることができるよう、精進して参ります。今後とも同窓会の皆様からのご指導ご鞭撻よろしくお願いたします。

（文責：金野 尚武

応用生命化学科、峰ヶ丘同窓会常任理事）

新型コロナ禍における 峰ヶ丘同窓会 学生支援



今年4月、大学当局は新型コロナ禍によって経済的に困窮した学生に対して、緊急学生支援を実施し、全学で1次募集に465名の応募があり、287名の学生に対して支援を行いました。そのうち農学部からは74名の申請があり41名の学生が支援を受けました。

峰ヶ丘同窓会では、国や大学からの支援に漏れ、修学継続が困難になっている学生会員に対して、『学生支援制度』（2003年6月28日制定）を活用し、経済的支援の補完を行うことにしました。

応募期間は、後期授業が始まる10月に合わせて支給できるように、9月1日～18日としました。これには、学費支弁者の収入激減や、アルバイト収入の激減・途絶など、深刻化する経済的打撃を受けている46名の学生から応募があり、9月25日常任理事会にて審査を行いました。その結果、この厳しい状況下、懸命に生活に向き合う学生の声を聞き、46名全員に総額300万円の支援を行うことにしました。

また、大学当局から、「後期の緊急支援は行うものの、学生の経済状況に直接的に支援する給付型の奨学金について原資の限界がきており、大学として多方面に支援をお願いしている」との報告を受け、農学部同窓会としては、今後さらに支援が必要となる学生をフォローするために、その用途を明確にすることを条件に、大学へ200万円の支援をすることを決めました。



届けられた「学生支援申請書」

退職のご挨拶



森林科学科 森林工学研究室

田坂 聡明（林学25回卒）

コロナ被害や豪雨災害などの未曾有の出来事が続き、例年以上に鬱陶しい梅雨の季節をむかえておりますが、皆様には

いかがお過ごしでしょうか。

さて私、平成4年に着任してから27年間の歳月が過ぎ、本年3月をもちまして定年を迎えることとなりました。この間、多くの先輩方や、学生諸氏、技術職員、事務員の皆様方と宇都宮大学という共通の空間を共にする幸運を得て、なんとか元気に楽しく過ごすことが出来ました。これもひとえに、講義、卒業論文などで学生諸氏と接し、常に新たな知識を得ることが出来たこと、演習林実習、ソフトボール大会などの交流により、気を若く保てたおかげと考えております。また、さすがに60過ぎてからはしんどいと感じましたが、学生や技術職員の方々と演習林の山の中を歩き回れる特典を得、演習林の変遷を常に身近に感じていられたことが、体力維持、無事の退職に繋がったと感じております。この場を借りて、お世話になった皆様にお礼申し上げますとともに、皆様の今後のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

最後になりますが、学生時代からを合わせて40年にわたる宇都宮大学・演習林の変遷を見てきたものとして現在の宇都宮大学に対する感想を述べると、かつてのパンカラな気風、フランス式庭園での酒宴、大学紛争などに象徴される、戦後の国立大学が持っていた大学の自治権・自由な文化、学問に対する熱い思いのようなものは時代とともに薄められ、学部・学科の改変や大学の独立法人化などをとおして、資本主義的な競争原理に引きずられた差別化や順位付け、恭順姿勢のみを求める大学への転換など、大学本来の姿勢とは違った方向へ進みつつあるような印象を受けます。農学部100周年を間近に控える中で、宇都宮大学の自由な気風と農学部の気骨が次世代に引き継がれることを心より祈念して、挨拶に代えさせていただきます。お世話になりました。



追悼



鷺尾良司先生を偲ぶ

鷺尾良司先生は、昭和7年、福島県白河市の御生まれで県立白河高等学校、本学農学部林科をご卒業後、九州大学大学院へ進学し、財団法人林業経済研究所での勤務を経て昭和38年に本学農学部助手

として赴任されました。その後、平成10年3月のご退職に至る35年間、本学農学部にて研究、教育、学内運営に心血を注がれ、農学部長、評議員、演習林長を歴任されました。数年前より体調不良を覚えられ、令和元年10月6日に87歳でご逝去されました。

九州大学、林業経済研究所、宇都宮大学での約30～40年違いの後輩にあたる私は、常に先生の輝かしい業績の足元を追いかける形でお姿を仰ぎ見て参りました。先生の学位論文となった一連の「飢肥林業発達史」は、宮崎県日南地方に展開した旧飢肥藩の林野制度と林業地の形成、戦後の発展を網羅して近世からの数百年にわたる地域林業の展開過程と到達点を明らかにした大著で、当地をはじめ学界で「飢肥林業のバイブル」として不朽の光を放っています。平成22年7月、林業経済学会春季大会運営委員会のメンバーで先生を囲み研究会を開催した折には、4時間余りの熱い講義を頂きました。先生は風呂敷包みに資料を携えて自転車で峰町のご自宅からおいでになり、その若さと体力に驚き、わかり易く面白い講義に皆で敬服いたしましたのも記憶に新しいところです。

ご功績を称えるひとつとして大学本部と連携し先生の叙勲手続きを進めていたところ、先生から「叙勲を辞退したい」とのご意向でした。驚いて尋ねると「自分にとっての勲章は、九州大学の佐藤宣子教授から頂いた『飢肥林業発達史』への反響の手紙で、他には要りません。」の強いご主張に説得の意気を失した自分を今さらですが省みています。心もとない限りですが、御遺志を継いで私共も精進してまいります。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(森林科学科 山本 美穂)

追悼



玉城昌幸先生を偲ぶ

玉城昌幸名誉教授が1月6日に亡くなられた。享年85。昨年6月に自宅で転倒、大腿部骨折のため入院を余儀なくされていた。リハビリのための転院先で夜間、ご家族に知らされることもなく生涯を

閉じられたそうである。

先生は1934年沖縄県に生まれ、琉球政府留学生として本学農学部へ入学、60年に農林省に入省され、農政局農業協同組合課、大臣官房調査課と歩まれたのち67年、母校に採用された。同省では農業白書の執筆を担当され、本学採用直後には単著『農協五つの問題』家の光協会、を刊行された。同書は農協にとって奉仕と経営の調和の追求が必要なことを念頭に、農協の問題点を鋭く指摘したものであった。先生は三浦虎六・桐田啓一先生に続く農業経済学、農業協同組合論の担当者として、2000年のご退官まで農業経済学科の屋台骨を支えられた。また評議員として、本学と農学部の発展に貢献された。

官僚として鍛えられたものか天性のものかは判然としないが、先生は事象の本質を瞬時に把握することに長けていた。そうしてしまうと、あとのことは些末といわんばかりに、こだわらないところがあった。それは同僚の笠井恭悦先生から「玉城さんは、統計で分かるが持論で、実態調査はおまけだ」などと揶揄されたりした。

幼少時、焦土と化した沖縄で日本兵の死体から軍靴を脱がせ履いたという凄惨な体験をもちながら、明るく開放的で、にぎやかな人であった。信条は徹底的にリベラルで、毎月『世界』を読み、佐高信や内橋克人、寺島実郎を話題にした。学生に対しては経済学者マーシャルの言葉“Cool Head, but Warm Heart”を説いた。座談の名手としての面目は酒席で遺憾なく発揮された。酔えば沖縄の白浜節を披露した。「我んや白浜ぬ枯松がやゆら」（私は白浜の枯松であろうか）で始まる、義理兄弟の恋の歌らしいが、「タイヤーしらはまー」としか聞こえない、悲しそうなメロディーが続くのだった。最後は説教になるが、ろれつが回らず、髪をかき上げる仕草ばかりの先生に相槌を打つのが常だった。

「玉ちゃん」としてみんなから愛された玉城先生、長いことありがとうございました。

(農業経済学 院昭和58年修了 大栗 行昭)

追悼



茅野甚治郎先生を偲ぶ

3月14日に茅野甚治郎先生がご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

最終講義・退職記念パーティーに多くの卒業生が集まり、茅野先生を囲んで楽しいひとときを過ご

したのがちょうど1年前。そのときもお酒は口にされていなかった。体調が芳しくないという事は感じていましたが、まさかこんなに深刻だったとは思いませんでした。茅野先生にご無理をさせてしまったのではという反省と、たくさんの卒業生に集まっただけで良かったという感謝の気持ちで、1年前を振り返っています。

私が茅野先生に初めてお会いしたのは、大学院生だった28年前、大学で開かれた研究会に参加したときでした。昼の研究会ではあの外見と鋭い切り口に圧倒され、夜の懇親会ではその変貌ぶりに圧倒されました。娘さんの写真を取り出し、たまたま近くにいた私の友人に「可愛いだろう、なっ」と同意を促す(強要する)様子、後に恒例行事だと判明しましたが、大学院に入りたての若者には十分すぎる衝撃で、友人を救出することもできず遠まきに眺めていたのを覚えています。

その後、大学院修了時に声をかけていただき、20年以上にわたってチーム茅野で教育・研究を行ってきました。研究、特に計量分析に対する厳しく真摯な取り組み、現場の実態を尊重しつつも経済学理論の適用を追求する姿勢、ここ一番の集中力と体力、ヤンチャな学生の指導法、鉛と鞭の使い分け、様々なことを茅野先生の背中をみて学びました。もちろん身に付かなかったことも数多くあります。

お亡くなりになる3週間ほど前に茅野先生から連絡をいただき、その後数回お見舞いに伺うことができたのは、私にとってありがたい置き土産だったと思います。茅野先生は、病床でも変わらず優しく、ユーモアがあり、最後までダンディでした。新型コロナ感染の懸念が小さくなった頃、お別れ会を催し、皆で思い出話をさせていただく予定です。茅野先生には、天国からもうしばらくお付き合いをお願いいたします。

(農業経済学科 加藤 弘二)

追悼



藤澤徹先生を偲ぶ

本学名誉教授 藤澤徹先生は、2019年4月26日に逝去された(享年93歳)。昭和26年東京大学農学部を卒業し、同大学助手、農林省を経て、昭和36年6月、宇都宮大学助教授、昭和43年同教授に就任

し、平成4年3月定年退職した。

この間、「土壌学」の教育、研究のほか「農林地質学」、「分析化学」の講義も担当するなど、幅広い識見を生かして学生の教育・研究に貢献した。

研究の最初が、男体山を噴出源とする七本松、今市軽石層の上部を構成する火山灰土壌の特徴に関するものであった。これらの軽石層が分布する中心線に沿って噴出源に近づくにつれ(南東から北西方向)、腐植層の厚さと炭素含量がいずれも増加し、これが雨量係数並びに降水量の増大と対応することを確認した。排水良好な場合、同一母材に由来する火山灰土壌の腐植の集積には、気候条件が重要な要因となることを明らかにした。

教育を通じて有為の青年を世に送り出した。特に農学部の人材育成の目的の一つである国、都道府県の農業分野の研究・専門職および教員の育成にその任を果たした。

社会貢献分野では、昭和30年代後半から動き出した公害行政の推進に先立って、土壌学研究室における、植物・土壌・水質に関する分析体制の充実に努め、時代の要請に対応した調査研究と学生の教育にあたり、自治体が公害対策行政に着手するプロセスに貢献した。公害研究所等で活躍した卒業生も多い。この間、栃木県公害対策審議委員および専門委員として尽力した。(栃木県知事および国務大臣環境庁長官より表彰)。

昭和61年より、約1年間JACAの国際協力に参加し、ポリビア共和国スクレ、サンフランシスコハビエル大学で教鞭をとった。土壌・地質学に関する講義と調査・分析に関する実習を通じて、同大学農学部の教育、研究の発展に寄与した(功績により同大学より名誉学位の称号を受けた)。感謝すると共にご冥福をお祈りします。

(農芸化学科 昭和43年卒 加藤 秀正)



追悼

村松晋先生を偲ぶ



2020年3月20日に村松晋先生がご逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

先生は、北海道大学大学院理学研究科をご卒業後、理学博士を取

得され、その後、東京医科歯科大学、国立遺伝学研究所、放射線医学総合研究所、国際公務員としてフランス国立保健医学研究所（L'Institut National de la Sante et de la Recherche Medicale）に勤務後、放射線医学総合研究所および農林水産省を経て、1996年から2001年まで宇都宮大学教授として、教育や研究にご尽力されました。研究専門分野は、動物遺伝学、放射線生物学および資源動物学で、研究テーマは動物の分子細胞遺伝学的研究でした。学部の授業では、動物遺伝学および動物育種学を担当され、ヒト、昆虫、家畜等の幅広い動物種について、染色体から分子遺伝学の分野について、先生のこれまでの経験を生かした実際の写真や興味深い資料を用いた授業を展開されていました。もちろん、この授業は学生にも人気があり、研究室には多くの学生が質問等に来ていたことを思い出します。また、研究では、育種学分野における染色体分析を中心とした研究に力を注がれ、ウシ、ブタ、ウマおよびニワトリなどの染色体分析を行い、卒論生、修士および博士課程等、多くの学生を送り出しています。学会活動においては、国際遺伝育種学会等に積極的に参加されるなど精力的に研究活動をおこなっており、スイス工科大学のストランジンガー先生の研究室との交流は忘れられない思い出となっています。

これら先生の国や大学の研究における功績が認められ、令和2年3月20日に「瑞宝小綬章」を授与されました。

研究に対して厳しく、しかし優しいお人柄であった先生の突然のご逝去は非常に悲しく、残念でなりません。

村松晋先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

（畜産学 院昭和62年修了 福井えみ子）

追悼

富田正彦先生を偲ぶ



富田正彦先生は、2020年9月2日に逝去されました。享年80歳でした。富田先生は、1940年3月11日に滋賀県でお生まれになり、岐阜大学農学部と京都大学大学院で農業土木学を学び、1965年に大阪

府立大学に着任、その後、滋賀県立短期大学、東京大学で教鞭を執られました。宇都宮大学に赴任されたのは1988年、そして2005年に定年退職されるまで実に40年もの長きにわたり農業土木の発展と学生教育に貢献されてきました。またアジア工科大学大学院にも赴任され、アジア各国との交流や優秀な留学生の受け入れにも尽力されました。

富田先生の研究対象は、畑地灌漑、国土利用計画、大区画水田整備、海外農業農村開発、農村土地利用計画と幅広く、その調査研究のなかで多くの後進を育成されました。富田先生の業績は教育研究にとどまりません。1982年に設立された農村計画学会の準備段階から主要メンバーとして尽力され、設立後は初代総務委員長として学会の基礎づくり、1996年には第8期の学会長になられ学会の発展に尽くされました。

学会設立当初、農村計画学の全体像を体系的に記述した書籍はありませんでした。そのようななか富田先生は1984年に「現代農村計画論」を刊行されました。「現代」と名付けられた通り、その内容は20世紀の農村計画技術を踏まえ、21世紀を展望する意欲的な著作でした。その功績が認められ1985年には農業土木学会から学術賞が授与されました。

定年退職の3年前には、先生の趣味趣向を凝らした素敵な自宅を建てられ、書斎や居間で研究や寛ぎの時間を過ごされたそうです。旅だったのもご自宅で苦痛無く奥様に看取られたとのこと。あまりに早いお別れでしたが、安らかに旅立たれたことは我々の慰めです。これまで多くの教をいただいた富田正彦先生に、あらためて感謝申し上げますとともに、ご冥福をお祈りいたします。どうもありがとうございました。

（農業開発工学科 H5年卒 田村孝浩）



支部総会（3支部）

全国の支部活動のご紹介です。同窓生の皆様には各県支部に入会頂き、同窓生のつながりを深めて頂きたいと思っております。お問い合わせは、P17の支部長一覧をご参照下さい。支部総会開催の際は、事務局までご連絡ください。

AKITA

秋田県支部総会

令和元年11月30日、秋田市にて開催いたしました峰ヶ丘同窓会秋田県支部総会におきましては、本部より田坂聡明先生を派遣いただくなど特段のご配慮をいただき、ありがとうございました。

総会では、学内の近況について、田坂先生のお話もあり、お陰様をもちまして、参加者22名と少人数ながら、会員一同、旧歓を暖め、大変楽しい時間を過ごすことができました。重ねてお礼申し上げます。

（林H3卒 高橋 正実）



GUNMA

群馬県支部総会

群馬県支部総会は、令和元年11月15日、前橋市内のホテルラシーネ新前橋において、本部より松澤康夫同窓会長を迎え、会員46人が出席して盛大に開催されました。

総会は、細谷信行副支部長（農芸化学科 昭和52年卒業）の開会、二見秀隆支部長（林学科 昭和44年卒業）の挨拶と続き、来賓の松澤康夫同窓会長から宇都宮大学の近況報告とご祝辞をいただきました。

議事では、長年にわたり支部長を務めてきた二見秀隆氏が退任し、新支部長に現副支部長の大嶋稲良（農業開発工学科 昭和51年卒業）、また新副支部長に桑原雅美（林学科 昭和58年卒業）が選任されました。

懇親会是新支部長の挨拶、嶋方徳郎元役員（総合農学科 昭和43年卒業）で始まり、大学時代の思い出に花を咲かせました。林学科卒業の清水豊氏、金井田俊夫氏の先導により、宇都宮大学歌、コチャ節を合唱し、最後に新副支部長の締めにより、閉会、お開きとなりました。

幹事 齋藤 穂高（生物生産科学科 H7年卒）



IWATE

岩手県支部総会

令和元年11月2日(出)に、盛岡市内丸の「北ホテル」において、宇都宮大学峰ヶ丘同窓会岩手県支部総会が12名の出席により開催されました。

総会では、山口和彦支部長（農S45卒）が10月12日に本州に上陸し記録的大雨をもたらした台風19号被害に触れ、早期復旧を祈願したほか、平成30年度の事業会計等を報告、承認されました。

総会終了後は懇親会に移り、小池俊吉副支部長（農経S44卒）の乾杯で始まり、同窓会本部からは、昨年続き、応用生命科学科の金野尚武准教授（生H16卒）を御来賓として御招きし、大学の近況や同窓会本部の情報等について御紹介していただきました。

懇親会では、学生当時の思い出話やお互いの近況などで会話が弾み、副支部長で管弦楽団OBの佐々木宏氏（農S51卒）がフルート演奏するなど、大変盛り上がりしました。

最後は、参加者の最年長で前支部長の藤巻正耕氏（農S40卒）が1年後の再開を願い、お開きとしました。

近年は、参加者が限られてきていますので、工夫して、より多くの方と共に盛り上げていきたいと考えています。

（林S63卒 及川 明宏）

クラス会（7クラス会）

全国のクラス会のご紹介です。毎年たくさんのクラス会が催され、ご寄稿いただいています。紙面の都合上、写真は1枚、原稿は800字までとさせていただきます。何卒ご協力のほどお願い致します。

1 林学科第14回生クラス会報告 クラス会

昨年、平成30年4月下旬、首都圏在住の幹事の人たちが、東京浅草の隅田川の遊覧船を借り切って（夜景・宴会付きクルージングでとても素晴らしく楽しかった。皆さんもぜひ）開いてくれたクラス会で、次回は秋田でとの参加の意向を受け、2年後の平成32年（まだ元号が令和と決まっていなかったの。）の開催を考えていましたが、平成32年は東京オリンピックが開催される年なので、皆それぞれ予定（観戦など）があると思い今年、令和元年6月23日24日、秋田県仙北市田沢湖町の田沢湖高原と角館町で開催しました。

田沢湖高原は、花の百名山としても知られる「秋田駒ヶ岳」の麓にひろがる温泉地で、日本一深い田沢湖も近い、一年を通じてにぎわう観光地です。

同級生13人と同伴婦人5人を加えた18人の参加でした。

1日目の6月23日は、田沢湖高原にあるホテルに宿を取り、早めの集合で学生時代の写真を見ながらの思い出話に花を咲かせ、夕食の懇談はますますにぎやかになり、さらに二次会と夜遅くまで語り合い、とても楽しい一晩でした。

2日目24日は、同じ地域にある、昨今国内はむろん海外からも湯治に来る人が多いといわれている玉川温泉に向かう組、隣県岩手県の観光地に向かう組、さらには桜と武家屋敷で有名な角館町に寄る組等目的がそれぞれで、朝別れを告げ、宿を後にしました。

今回は、諸般の事情で仙台の鈴木君に全面的に協力をお願い、中止することなく無事クラス会を開くことができました。すぐにサポートしてもらえる同級生がいることは心強いものです。

次回は福島県内での開催を在住の荒井（賛）齊藤（勝）の両君が引き受けてくれました。

卒業後、昭和、平成、令和と半世紀を超えてきた宇都宮大農学部41林クラス会は、この先まだまだ続けていけそうです。 幹事（佐藤 野村 吉田 鈴木（仙台））

出席者 敬称略

丸山・大島夫妻・岸・荒井（紀）・齊藤（和）・田村夫妻・荒井（賛）夫妻・齊藤（勝）・鈴木・佐藤夫妻・野村・吉田夫妻



2 農経科第16回（昭和43年卒業） 同窓会 クラス会

令和元年9月11日(水)～12日(木)長野県別所温泉で同級会を開催した。同級会は2年毎に開催しており、今回の出席者は14名であった。今回初参加は植田君。実に50年ぶりの再会となった。幹事は桐生君。長野県出身ではあるが、現在は埼玉県居住。離れた地での1人幹事で大変だったでしょうが、きめ細やかな配慮ある温かい同級会となった。ご苦勞様でした。そして有難うございました。

初日名湯中松屋で午後6時懇親会を開会。近況報告・恒例の渡辺公之君のマジックと続き、盃を重ね楽しい語らいが2次回を含めて延々と続いた。

翌朝は由緒ある外湯で酔い気分を一新。その後、信州の鎌倉と称される寺院仏閣を参拝し、上田上で昼食をとり、2年後の再会を約束し解散した。

次回（令和3年9月）は久しぶりに宇都宮に戻り、中田君・上野君そして田村の3人幹事で行うことが決定。母校を訪ねながら楽しいひと時を過ごしましょう。皆さん連絡を楽しみにお待ちください。（田村 記）

今回の出席者＝猪狩・上野・植田・川俣・桐生・佐藤史・田村・中田・星野・堀越・松澤・山本・渡辺武・渡辺公



3 農芸化学科19回生クラス会 （昭和46年3月卒業） クラス会

日 時：2019年10月10日、11日

場 所：長野県飯山市

参加者：13名

阿部容久、伊藤ゆり、小川徹、桑川一夫、渋谷陽一、鈴木節子、関口忠男、中島節夫、福島義隆、三好和彦、山田浩、（幹事）高梨知子、高崎信一

今回のクラス会は盛りだくさんで欲張りなプラン、

- ①普段なかなか行けない北信濃の秋を楽しむ。
- ②北信濃三大修験場の一つ小菅神社で歴史に思いをはせる。
- ③志賀高原横手山山頂（2307m）からの絶景に感動する。
- ④日本一標高の高いところにあるパン屋さんで買い物する。
- ⑤名物信州信濃の蕎麦、飯山の笹寿司、地元食材の夕食

を味わう。
これらすべて心ゆくまで楽しんできました。

参加者の顔合わせは小菅神社の参道にある有名なお店、落ち着いた雰囲気のある浅葉野庵でした。地元産の信濃の蕎麦を食べながらお互い元気であることを確かめあいました。昼食の後は、修験場として有名な小菅神社と信仰の歴史が残る小菅の里を見学しました。この神社は戸隠山、飯縄山と並ぶ修験道の聖地ですが、我々だけで歩くと古い建物などが石垣があるなという感想で終わってしまうのですが、ガイドさんと一緒に石垣に大きな石で花の模様を作っている梅鉢積みに驚いたり、今に残る信仰に思いをはせることができました。

ガイドさんとお別れするとき、「こんなに熱心に話を聞き、質問する人は初めて」と感心されました。農芸化学科で養われた探究心を今もみんな持っていました。

翌日は宿のバスでちょっと遠い横手山に登ってきました。横手山は群馬県草津につながる道路が日本一高い峠を通ることで有名です（山好きの人達には）。バスが急な坂道を大きなエンジン音をたてながら登っていくと鮮やかな紅葉ができました。きれいとの歓声があがりました。ちょっと雲の多い日でしたが、2307mの山頂展望台にたつと手前に奥信濃の山々、その後ろには北アルプス（白馬岳、剣岳、槍ヶ岳など）がキラリとした姿を見せてくれました。みんなで山名案内板を囲み、ああだこうだと言いながら山座同定に熱が入りました。（横根山展望台で記念写真）

この後、日本一高い所にあるパン屋さんでパンを食べながら一休みし、昼食会場に向かいました。往復のバスの中で女性陣は話し通し、夕べも同じ部屋で寝る間を惜しんで話していたはずなのに、まだ話すことがあるのかとあきれ顔の男性陣でした。

お昼はこれまた地元で有名な笹寿司を有名な店で食べました。笹寿司はクマザサの葉に酢飯と具材を載せた郷土料理で、上杉謙信が川中島の合戦に向かうときに献上されたと伝えられています。そして、隣の土産店で買ったお菓子和地元幹事の高梨さん手作りの深い味わいのトマトペースト的（名称不確か）をお土産にもらい、新幹線飯山駅で来年の再会を約束して解散しました。2020年は千葉の予定です。（高崎 記）



4 農化16回生（昭和43年卒業） クラス会

昨年（平成30年）のクラス会は卒業50周年を迎えて9月下旬の益子で開催され、参加者は総勢19名（男性13名・夫人6名）、集合写真は割愛して益子メッセ見学と大瀬築鮎焼きを昼食で堪能した報告に止めます。

2019年（令和元年）のクラス会は10/21（月）～10/24（木）の3泊4日の旅を沖縄県で開催しました。21日までに那覇市内のホテル泊、翌日に1泊2日の久米島ツアー、23日も那覇市内ホテル泊の行程で計画・実施しました。幹事は台風20号の接近で延期も考えましたが、予定通りに開催できました。今回不参加の級友には、次回の石川県能登（和倉温泉）への参加を期待しております。

那覇での初日は、大滝氏手配の首里の琉球料理と泡盛とで飲食・談笑しながら、1年ぶりの再会に時間を忘れてました。翌日、那覇空港から久米島空港へ40分、その後は運転手兼ガイド役の島内観光バスで主な名所（五枝の松・上江洲家・ミーフガー・比屋定パンタ・置石など）を巡りました。運転手と上江洲家両ガイドの語り口や話題内容には独特の魅力があり、愉快的時間を過ごしました。ホテルでのクラス会兼夕食会では、宴会料理と久米島産泡盛等を楽しみ、ご婦人方の近況報告も交えて盛り上がり、時間延長もままならず部屋に戻りました。その後は、別室にて例年通り就寝時間の遅くまで語り合いました。翌日の10時頃には那覇空港に到着し、各自のプラン別に沖縄本島南部や中部方面の観光地で過ごしました。夕食時には首里の伝統的家庭料理店に再度合流して集い、店長と級友のホスト役とで大いに盛り上がりました。最後は田中氏の一本締めで締め全行程を無事に終わりました。

ホテルに戻る際に眺めた首里城のライトアップ風景は、一週間後の10/31（木）、首里城正殿の炎上焼失により見納めになりました。世界文化遺産の首里城が1日でも早く、早期に復元・復興されることを祈念しましょう。

（幹事：渡嘉 敷）



参加：大滝・北村・柴田・清水・森正・渡嘉敷の6夫婦、
染谷・田中・箱山の3氏



5 畜産学科16回生（昭43年卒） クラス会

令和元年10月28日～29日

今年は地元宇都宮を中心とした幹事の計らいで、奥日光湯元温泉でクラス会を開催しました。湯元スキー場の近くで、紅葉が真っ盛りの時期でした。雪の時期はスキーヤーも多く宿泊するという落ち着いた雰囲気の中で、美味しい酒と料理の「奥日光小西ホテル」での一夜でした。源泉かけ流しのにごり湯にもゆっくりつかりました。

宴席では石崎会長の挨拶のあと、11名のお互いの近況報告があり、70歳を超えて病気や災害にもめげず、政治や社会問題にも首を突っ込み、学生時代の思い出話など時間を忘れて語り合いました。また、日経新聞の6月に報道された企業の人事担当者の行動力・対人力等の4項目の大学イメージ調査で、宇都宮大学が全国ランキングで6番目だというちょっぴり誇らしい話題もあり盛り上がりしました。

翌日はあいにくの雨模様でしたが、朝食時にホテルの窓際まで野生の鹿が近寄ってきました。「華厳の滝」や「日光自然博物館」を見学し、ジンギスカンで有名な「大笹牧場」で昼食をとり、再会を約束して散会しました。

（記 鈴木）



6 農学部農業工学科 昭36年度入学クラス会

私達の宇都宮大学は、栃木師範学校・宇都宮高等農林学校を前身として、昭和24年（1949）に新制大学として創立され、今年で70年を迎えます。

これを記念して母校では、創立70周年記念事業と同日に第5回「ホームカミングデー」（H.C.D）が11月23日（土）に開催されます。

この機に、宇都宮でクラス会を開催することは、我々クラスメートは基より、他クラス、他学部の旧友とも逢える絶好のチャンスであり、青春を謳歌した頃の思い出を楽しく語り合えるチャンスでもあると考え、クラス会を開催することにいたしました。このような「クラス会の案内」をクラスメートに送付し、令和元年11月22日（金）に開催しました。我々のクラス会のネーミングは三学年の時の「測量宿泊合宿」の結びつきが強く、其の時のメンバーで構成されています。原則的には毎年1回各県持ち回りで開催され、地元である栃木県では、90周年記念事業が行われた、平成

24年に行われて以来7年振りです。会場は二次会のことを考慮し、飲食店が多いJR宇都宮駅東口に近い「ホテルサンシャイン宇都宮」にしました。当日は生憎寒い雨降りになってしまいました。集合時間の16時近くなると、一人、二人、……と人数が増え“オー暫く”とだんだん賑やかになって、予定した14人が揃いました。地元を代表して私が司会進行を担当して、17時からホテル1階のアイリッシュパブ「Lion's Head」で懇親会が始まった。始まると間もなく50数年前に若返り賑わったが、次回開催地を決めて会を閉じた。準備体操が終わりこれからが本番であるが、寒い雨はまだ止まず、それでも、幾つかのグループに分散し居酒屋等に散っていった。翌朝二日酔いになるようなものも無く、朝食のバイキングを食べ、タクシーで大学に行き、大学会館のセレモニーに参加した。内容が在学人向けで、缶詰状態の2時間が窮屈だったこともあり、終わると直ぐ帰路についてしまったものが多く、数名しか農学部H.C.Dに参加しなかった。

H.C.Dの内容にもよるが、H.C.Dに参加するには、H.C.Dの後、宿泊するのが良いのか？迷うところである。

（S40農工卒 竹永）



7 新農学科第7回生最後の集い クラス会

今回は特にゴルフプレーをしたわけではありませんが、この天空の別天地のような付属リゾートホテルに宿泊しました。



写真左から、篠原・三浦・草薙・小堀・岡本の名氏です。

ワンポイントで各氏の来し方行末等を紹介してもらいました。

○篠原氏：鹿沼市役所秘書課長、総務部長等を歴任。指絵

(中国風の絵画法)、てん刻、囲碁が得意です。

- 三浦氏：秋田県庁職（あらゆる分野を転属経験したとのこと）退職後、妻と死別。現在はボーリングゲーム等で楽しんでいる。
- 草薨氏：高校教職時代バスケット部監督として二度の全国制覇を達成、最終校長、叙勲、住宅は国の重要文化財に指定受。
- 小堀氏：県鳥類保護協会会長等、自営社長。国内外に鳥類の生態を追って活動。鳥類特製カレンダーを制作。
- 岡本氏：山違い、畑違いの生命保険会社に勤務。歌唱指導教授、日建学院宅建・FP講師。日本空手道

連盟法真館五段錬師。消費生活、国際交流協会理事、統計調査員（宇都宮市に登録）等でボランティア活動に従事。

ここ数年仲間たちの同意で宇都宮を中心として同期の集いを開催してきましたが、峰ヶ丘を去って60年目の今回を期して最終回となりました。皆様お疲れ様でした。

手前味噌となりますが、岡本は、かの地下鉄サリン事件の際、地下鉄霞ヶ関駅で遭遇して被災死していたであろう危機を偶然回避して、現在生かされております。人生100年時代を一層健康で明るく過ごして行きましょう。

(文責 岡本)

～皆様からのご意見をお寄せください～

＊ ＊ 会員名簿の発行について ＊ ＊

突然ですが、会員名簿はお手元にありますか？峰ヶ丘同窓会『会員名簿』は、発行されてこれまで90有余年経ちます。現存する一番古い名簿は、1929年（昭和4年）11月発行の87ページの冊子に記された390名の『同窓会員名簿』です。1981年（昭和56年）からは4年に1度の発行になり、最新版は2017年（平成29年）12月に発行されました。

これまで名簿は、多くの会員の相互親睦のために利用され、クラス間の連絡や事務局からの連絡、会報の発送のためには必要不可欠であり、同窓会の基本事業の一つとされてきました。その製作費は、皆様から頂いた会費を積み立て、名簿を購入してくださる方の名簿代金と合わせて充ててまいりました。

しかし、2005年（平成17年）に個人情報保護法が施行されてから15年、プライバシー情報に慎重にならざるを得ない時代になり、会員の情報開示者が年々減少しています。さらに、名簿購入者も会員全体のわずか5%となり、名簿製作は、データ収集と経費の両面で大変苦しい状況にあります。全国的傾向としても、名簿の廃止あるいは10年に1度の発行にするなど、大きな変化が見られます。今後も、PCなどの電子機器の普及により若い世代の紙媒体離れが進み、名簿の利用価値が大きく変わっていくことが予想されます。同窓を想う気持ちはずっと変わらないのですが、会員名簿のあり方については抜本的に見直されるべき時期に来ております。

次の会員名簿は、2022年（令和4年）の農学部100周年記念に合わせて発行することにしておりますが、事務局としましては、冊子での販売はこの機を最後として廃止し、個人情報管理を続けながら、情報提供については必要に応じて個別に対応するシステム作りに移行することを検討しております。もちろん、これにより会員の皆様にご不便がないようであればなりません。

このことにつきまして、会員の皆様からのご意見も参考にしながら、検討して参りたいと思っております。是非、下記の連絡先にご意見をお寄せください。お待ちしております。

【連絡先】同窓会事務局
 TEL/FAX：028-649-5400
 （月・水・金 9:00～17:00）
 E-mail：minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp



昭和4～19年の会員名簿



最近の会員名簿

特別寄稿

ブラジル国 アマゾンに先輩を訪ねる旅

田中 順一（農学科 昭和46年卒）
大場 伸一（農学科 昭和53年卒）

1959年（昭和34年）、宇都宮大学農学部にて熱帯農業と移住社会を研究対象とする「拓殖学研究室」が国立大学で唯一設置されました。本研究室で学び、大志を胸に秘めて海外に移住し、新天地で新しい道を切り拓いた卒業生は幾多あります。

この度、ブラジル国に移住され、50年以上に亘って現地で活躍されているお二人の先輩を訪ねてきましたので、本誌上をお借りしてご紹介します。訪問者は共に拓殖学研究室出身の田中と大場の2名で、訪問は2019年11月、新型コロナウイルス騒動が始まる3か月程前でした。

第一の訪問先は日本人移住地トメアスーで、アマゾン川河口流域のパラー州都、人口150万人のベレム市から200km程内陸部に入った場所に位置しています。

トメアスーに日本人が最初に移住したのは1929年ですが、ブラジルではサンパウロ州のコチアと並び称される代表的な日本人移住地です。トメアスーには1933年にピメンタ（胡椒）が初めて移植されましたが、その後1950年代まで栽培が広がり国際価格も高騰して「黒ダイヤ」と呼ばれるほどの景気に沸いた時期がありました。しかし、60年代に入ってピメンタに病気が蔓延したのに加え国際価格が下落し、トメアスー農業の勢いに陰りが見え始めました。

その後トメアスーではピメンタを換金作物として広大な面積に植え付けるモノカルチャーであったことが問題点として指摘され、これを反省に多様な作物導入の必要性が叫ばれました。試行錯誤が繰り返された結果、現在はピメンタに加えて、カカオ、パッションフルーツ、ピタヤ（ドラゴンフルーツ）、アサイーなどが主要作物となっていますが、これらの作物の導入に際しても複数の作物や植物を混植することがひとつの鍵になっているようです。例えばカカオ栽培では陰となる被陰樹が必要なので、高木との混作が必要で、このように樹木と混植する農法はアグロフォレストリー（森林農業）と称されています。

森を大規模に切り拓くことなく作物を導入し、樹木と混植するアグロフォレストリーは、アマゾン川流域で大きな問題となっている森林伐採と火入れによる強引な農園開発をくい止める手立てとして現在大きく注目されています。隣国のボリビア、アフリカのガーナでもトメアスーをモデルとしてその取組みが始まるなど、トメアスーで実践されてきたアグロフォレストリーは先駆的な取組みとして世界的な評価を受けています。

このトメアスー移住地を案内して頂いた峰下興三郎先輩は1962年（昭和37年）、大学卒業と同時に移住されました。当時はピメンタ栽培の先行きが見通せなくなっていた時期であり、移住当初から自らの農場経営に加えて、農協運営にも苦勞されたこととです。現在は自らの農場で、カカオと組み合わせるバナナ、アサイー、その他の果樹を栽培しながら、組み合わせる作物の相性、栽植密度などを研究されており、私たちもその状況を見させていただきました。峰下先輩はこれまでトメアスー総合農業協同組合の理事長を務められ、農業振興と移住地発展に大きく寄与されてこられました。また2018年には秋篠宮眞子内親王殿下が皇族として初めてトメアスーを訪問されましたが、その際、峰下先輩は内親王殿下を自らのアグロフォレストリー農場にご案内する栄誉に浴されました。私たちが訪問した際にも自ら車を運転し、10戸程の農家を訪ねて、アグロフォレストリーの面白さと研究の方向性を説明して頂きました。訪

問した農家ではカカオ、ピメンタとその被陰樹の生育の具合をひとつひとつ丁寧に観察し、これからのトメアスー農業の道筋を探っておられる様子が窺えました。現在も息子さんと共に現役で農場の経営に携わる傍ら、俳句会やゴルフで余暇を楽しんでおられます。

峰下先輩には今後共、トメアスー移住地にとどまらず、地球規模の森林破壊を止めるアグロフォレストリーの発展のためにご活躍されることを祈念しております。

さて、この度のブラジルへの先輩訪問に際しては1963年（昭和38年）卒業の土屋泰司先輩に最初にお便りを差し上げ、そして土屋先輩よりトメアスー在住の峰下先輩に連絡を取っていただいたことなど、旅のきっかけは大変お世話になりました。

土屋先輩は現在アマゾン川中流域、アマゾナス州都で人口200万人のマナウス市にお住まいで、豆腐の製造販売に携わっておられます。土屋先輩の豆腐は市内在住の日本人の他、韓国人、中国人からの引合いが多く、大忙しの毎日が続いているとのこととです。他に油揚げ、漬物、饅頭なども作っていますが、市内でしばしば開催されるイベントでは引っ張りだこの人気商品となっているようです。

土屋先輩が宇都宮大学に進学し拓殖学研究室を選んだのは、既にお兄さんがブラジルに移住していたことに刺激されてとのこととです。研究室では那須の開拓地を調査して卒業論文にまとめたこと、菅原友太教授（故人）からは「優」の成績をたくさんもらったことなど、昔を振り返りながら穏やかに語っておられました。

私たちがマナウスを訪ねた際にはアマゾン自然研究所やアマゾン川クルーズを案内して頂き、日本では想像できないスケールのアマゾンの大自然を満喫することができました。

最近息子さんから届いたメールによりますと、ブラジルでも新型コロナウイルス感染の広がりで住民が家を出る機会がめっきり少なくなり、家業にも影響が出ているとのこととです。土屋先輩は数年前から仕事の一線からは退いておられますが、まだまだお元気で運転免許証も更新したばかりとのことのお話、早く新型コロナウイルスが沈静化し、元の日常生活に戻れるのを待ち望んでいることと思えます。

この度のブラジルを訪問に際してはお二人の先輩はじめご家族、移住地の多くの方々より多大なお世話を頂きました。ここに紙面をお借りしてお礼申し上げます。

（文責 大場 伸一）



左：峰下興三郎先輩 右：田中トメアスー総合農業協同組合前で



立姿：（左）田中、（右）大場
座姿：土屋泰司先輩

令和2年度理事会報告

令和2年度理事会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となりました。

このため、令和元年度決算及び監査報告、令和2年度予算、役員選出について、各理事・監事への書面による承認をお願いし、構成員（会長・副会長・理事長・常任理事・新旧理事監事）92名中、過半数となる69名の常任理事会への一任をいただきました。

これにより、以下の報告をいたします。

会務報告

1. 支部総会等の開催 12支部

- 2019. 7. 7 茨城支部総会
- 2019. 8. 17 北海道支部総会
- 2019. 8. 30 富山支部総会
- 2019. 9. 6 栃木県庁支部総会
- 2019. 9. 28 静岡支部総会
- 2019. 11. 2 岩手支部総会
- 2019. 11. 15 群馬支部総会
- 2019. 11. 17 福島支部総会
- 2019. 11. 30 秋田支部総会
- 2019. 11. 30 栃木県高校教職員連絡会
- 2019. 12. 6 宇大支部総会
- 2019. 12. 14 宮城支部総会

2. 常任理事会等の開催

- 2019. 7. 17 第1回常任理事会及び引継会
- 2019. 8. 5 第2回常任理事会
- 2019. 10. 7 第3回常任理事会
- 2019. 11. 11 第4回常任理事会
- 2019. 12. 9 第5回常任理事会
- 2020. 1. 27 第6回常任理事会
- 2020. 2. 19 第7回常任理事会
- 2020. 3. 18 第8回常任理事会及び石蔵改修について大学関係者との会合
- 2020. 2. 28 第1回宇都宮大学各学部同窓会連絡協議会
- 2020. 4. 13 第9回常任理事会
- 2020. 5. 18 第10回常任理事会中止
- 2020. 6. 15 第10回常任理事会
- 2020. 6. 20 令和2年度理事会中止

3. その他の行事

- 2020. 1. 27 学生評議員会
- 2020. 3. 24 学位授与式中止
- 2020. 4. 6 入学式中止
- 2020. 4. 8 新入生歓迎会中止
- 2020. 4. 8 保護者ガイダンス中止
- 2020. 5. 18 会計監査中止

4. 「峰ヶ丘同窓会報」の発行

- 2019. 9. 20 第157号発行

5. 支援制度

- 教員教育研究支援制度（農学部栄誉賞）計1件
 - 学生支援制度（海外学会支援2件・農学部栄誉賞6件）計8件
- 以上会務報告

会長委嘱理事（令和2年度）

- | | |
|------|----------------------|
| 理事長 | 安藤 益夫（経54） |
| 常任理事 | 生物資源科学科 小笠原 勝（農54） |
| | 福井 えみ子（院畜62） |
| | 香川 清彦（農H3） |
| | 応用生命化学科 金野 尚武（生化H16） |
| | 農業環境工学科 守山 拓弥（院環H16） |
| | 森林科学科 森 大久保達彦（林57） |
- （○印：新任）

令和2年度事業計画（案）

1. 理事会の開催
2. 常任理事会の開催
3. 新入生歓迎会の開催
4. 「峰ヶ丘会報」の発行（年1回 全会員に送付）
5. 各支部総会への出席
6. 農学部への協力支援
7. 学生評議員会の開催
8. 「学生支援制度」の実施
9. 「教育研究支援制度（教員会員）」の実施
10. 大学諸行事の協力
11. その他

令和2・3年度理事・監事

- | | |
|------|--------------------|
| 会長 | 松澤 康男（農41） |
| 副会長 | 大塚 国一（開48） |
| | 後藤 達夫（経46） 福島支部長 |
| | 大嶋 稲良（開51） 群馬支部長 |
| | 菊池 正蔵（農46） 茨城支部長 |
| | 鈴木 英雄（林H2） 埼玉支部長 |
| | 荒井 真一（開58） 栃木県庁支部長 |
| 理事長 | 安藤 益夫（経54） |
| 常任理事 | 小笠原 勝（農54） |
| | 大久保達弘（林57） |
| | 福井えみ子（畜院62） |
| 理事 | 香川 清彦（農H3） |
| | 金野 尚武（生化H16） |
| | 守山 拓弥（環院H16） |
| | 前田 忠信（農42） |
| | 和久井保彦（経H13） |
| | 菊地 正憲（農45） |
| | 檜山 友貴（経H29） |
| | 高橋 滋（農48） |
| | 青木 知義（畜36） |
| | 木村 陽一（農50） |
| | 植木 保夫（畜40） |
| | 石川 成寿（農52） |
| | 吉澤 緑（畜50） |
| | 中山 喜一（農56） |
| | 増山 秀人（畜62） |
| | 川原 直人（生植H7） |
| | 横山 晃子（生動H9） |
| | 鷲尾 一広（生応H7） |
| | 星 一美（生動H11） |
| | 上田 正人（生応H8） |
| | 上野 武二（工32） |
| | 杉山 栄（林36） |
| | 小川 正順（工49） |
| | 小松 茂夫（林45） |
| | 福田 保（開50） |
| | 立壁 敏夫（林46） |
| | 清水 靖夫（開59） |
| | 福田 慎造（林51） |
| | 青柳 俊明（開61） |
| | 舘野 知（林53） |
| | 五月女寛行（環H7） |
| | 津布久 隆（林58） |
| | 大久保尚彦（環H12） |
| | 篠崎 武彦（森H7） |
| | 渡辺 雅人（環H15） |
| | 岩上 真美（森H8） |
| | 加藤 秀正（化40） |
| | 山崎 文生（森H29） |
| | 宇田 靖（化45） |
| | 伊澤敬一郎（経29） |
| | 杉田 和之（化50） |
| | 平塚 俊郎（経49） |
| | 渡辺 正夫（化51） |
| | 関川 元樹（経50） |
| | 田崎 公久（化H10） |
| | 國谷 渡（経51） |
| | 青沼 伸一（化H11） |
| | 高田 武（経54） |
| | 石原島由依（生化H29） |
| | 黒後 貞夫（経H7） |
| | 高橋 廣美（総42） |
| 監事 | 大金 重秀（林H2） |
| | 小椋 智子（化32） |
| | 稲見 定幸（経H8） |
| 顧問 | 学長 石田 朋靖 |
| | 学部長 齋藤 高弘 |
| | 和賀井睦夫（農25） |
| | 竹永 博（工40） |

お祝い

このたびは、おめでとうございます。

叙 勲

2020	春	瑞宝小綬章	故	村松	晉
2019	春	瑞宝単光章	林45	久保	通男
2019	秋	瑞宝双光章	農30	水井	税
2018	秋	瑞宝小綬章	土26	須郷	文博
2018	秋	瑞宝小綬章	総37	菊池	孝治
2014	秋	瑞宝双光章	畜23	伊佐山	康郎

昇 任

農学部教授	西山	未真
農学部准教授	佐藤	祐介

慶弔についてのご連絡

峰ヶ丘同窓会会員の慶事および弔事の際には、会員の方々からのご連絡に基づいて対応しております。慶弔事が発生しました際には、下記事務局までご連絡ください。

I. 慶事（褒賞、叙勲等）の場合

1. 受章者、受賞者の氏名、年齢、卒業年次、学科、住所、電話等
2. 受章、受賞の種類（褒賞、叙勲その他の賞の種類）
3. 受章、受賞の日時

なお、叙勲のご連絡は、新聞などに掲載されますが、学歴まで記されておられませんので、事務局で判断し掲載することができません。関係各位からのご連絡により、ご報告とさせていただきます。何とぞご了承のほどをお願いいたします。

II. 弔事の場合

会員、会員以外の顧問・元顧問、現職教員、元教員が対象となります。

1. 逝去者の氏名、逝去日、卒業年次、学科
2. ご遺族（喪主）の氏名（逝去者との続柄）
3. 通夜・告別式の日時、場所

なお、事務局宛にご連絡がない場合、当方からの郵便物の送付を中止できませんので、何とぞご了承のほどをお願いいたします。

●連絡先：峰ヶ丘同窓会事務局
TEL：028（649）5400
E-mail：minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp
月・水・金 9：00～17：00

寄贈図書

- 「森林の水源涵養機能～いち研究職員の業務記録～」
藤枝 基久
- 「川田龍吉伝」
館 和夫

銘酒「久保田」の生みの親

嶋 悌司 様（S25農芸化学科卒業）

2020. 5. 18ご逝去

「お別れ会」2020年10月19日(月) 11：30～15：00
ホテルニューオータニ長岡にて献花台のみ設置

お問い合わせ先・主催者

朝日酒造 経営企画部：0258-92-3181

宇都宮大学の空撮をお楽しみください！

- 宇都宮大学フランス式庭園〔ドローン空撮動画〕
<https://www.youtube.com/watch?v=vwV9kN2eBhY>
- 宇都宮大学峰キャンパス〔ドローン空撮動画〕
<https://www.youtube.com/watch?v=U-znlT5LozM>

今年度定年退職予定の教員

令和3年3月をもちまして、以下の教員が退職されます。

令和3年3月までの連絡先は、以下の通りです。

- ・東 徳洋：応用生命科学科 028-649-5478
azuma@cc.utsunomiya-u.ac.jp
- ・相田 吉昭：生物資源科学科 028-649-5427
aida@cc.utsunomiya-u.ac.jp
- ・安藤 益夫：農業経済学科 028-649-5516
amasuo@cc.utsunomiya-u.ac.jp

次回会報発行日程 原稿締め切り日のお知らせ

同窓会では、皆様からの情報をお待ちしております。会報次号の発行は、2021年10月初旬の予定です。原稿の締め切りは、2021年6月30日となりますので、宜しくお願いいたします。

編 集 後 記

寂しいニュースが目立つ昨今ですが、今しかできないこと、今だからできることを意識していきたいと思っています。今年は大学広報用の動画「宇都宮大学公式 You Tube チャンネル」が充実しております。ぜひ同窓生の皆様にも大学の今を知る機会にご覧いただければ幸いです。（金野）

こんなこと

やっています (その14)

農学部附属農場

農学部附属農場（以下、農場）は、峰キャンパスの南西に約12km、井頭公園の西隣に位置し、総面積101haを誇る全国でも屈指の規模を有する農場です。1983（昭和58）年にそれまで分散していた旧農場を移転、統合し現在に至っています。農場には作物、園芸、畜産、機械・土地利用の4部門があり、各部門に専任教員が配置されている点も大きな特徴です。

農学部の学生は時間数の差はあるものの、すべての学生が農場実習を体験するカリキュラムになっています。2012年（平成24年）からは基盤教育科目（以前の教養科目）として、農学部以外の学生への実習教育を開始、さらに教育学部の教職課程（技術・家庭科、栽培）の履修生を2019年（令和元年）から受け入れており、今年度から発足した群馬大学との共同教育学部カリキュラムにも農場が関与しています。

2010（平成22）年に長尾慶和現農場長が中心になり、全国に先駆けて文部科学省から共同利用拠点農場の認定（1期5年）を受けました。本認定は農場での教育実績、スタッフ、設備などが高く評価された結果であるといえ、首都圏や栃木県内の大学を中心に食育や環境関係専攻の学生の農業実習を2期10年にわたって受け入れてきており、現在3期目として継続中です。2019（令和元）年は延べ739人日の農場利用実績があり、日頃の教育・研究では得ることができない貴重な農業体験を提供してきました。

農場オリジナル商品の開発も手掛けており、水稲では「ゆうだい21」、乳製品では農場産生乳を利用した牛乳「純牧」、チーズ製品、園芸分野ではサツマイモを利用したオリジナル焼酎、醸造用ブドウ品種メルローを利用したオリジナルワインなどを手がけています。ゆうだい21は粘りが強く、冷えてもおいしい独特の食感をコメ卸業者が高く評価しています。農場などでの種子生産により全国に栽培を拡大し、大手コンビニエンスチェーンとの連携により、栃木県のみならず国内の多くの店舗で弁当用を中心とした業務用米として利用されています。生乳は乳牛の放牧飼養を採り入れ、県内酪農家との共励会でも上位入賞を果たす高品質な乳質が高く評価されています。飼養頭数の制約により、これら乳製品は大量生産ができないこともあって、入手困難なほどの人気製品揃いです。



農場産生乳を利用した乳製品



ダイズの生育調査実習

オリジナルワインも原料となるブドウは醸造メーカーからその品質が高く評価されました。今後の発展が期待されるところです。

このように、農場では実学である農学の研究と教育、社会貢献へ教職員が一体となって日夜努力を重ねています。

（文責 農学部附属農場

高橋行継）

フライング用中心点

昔の同窓時報を探しています

昭和16～23・25年の、同窓時報を探しています。また、同窓会に寄贈いただける古い写真などありましたら、以下までお送りください。

2022年（平成34年）4月30日まで募集しています。

〒321-8505 宇都宮市峰町350 宇都宮大学内
農学部峰ヶ丘同窓会 あて
お問い合わせ：028-649-5400 峰ヶ丘同窓会事務局
minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp



峰ヶ丘会報 第158号 令和2年10月10日発行 編集人 常任理事会 発行人 松澤 康男

発行所 宇都宮大学農学部峰ヶ丘同窓会 〒321-8505 宇都宮市峰町350

TEL・FAX 028 (649) 5400 e-mail:minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp

郵便振替 00330-0-357 宇都宮大学農学部峰ヶ丘同窓会

印刷所 株式会社 井上総合印刷 TEL 028-661-4723